

チャレンジ！！オープンガバナンス 2016 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注)	No. 63	タイトル オープンデータで笑顔のまちづくり	自治体名 愛媛県 松山市
アイデア名 (公開)	笑顔かわす、オープンデータ学びの場の創出		

(注) 地域課題タイトルは、COG2016 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	Code for DOGO		
チーム属性 (公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input checked="" type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
代表者情報	氏名 (公開)	中川祐治	

※ 公開条件について

次ページ以降の「2. アイデアの説明」でご記入いただく内容は、内容を確認した上で、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

(注意書き)

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2016_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2016 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2016@pp.u-tokyo.ac.jp

<公開非公開など>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
4. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。
5. 「アイデアの説明」中に、文章、写真、図画などで応募したチーム以外に知的所有権が属する箇所がある場合には、法令に従った引用や知的所有権者の許諾を得るなどをした旨をそれぞれ注として書いてください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。

<チームメンバー名簿>

6. チームメンバーは別紙のエクセルファイルに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は COG 事務局からは非公開です。詳細は別紙をご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

データや資料を活用して課題の具体化とその解決につながるアイデア（公共サービス）のストーリーを語ってください。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれがする、何を、どこでする、いつする、どのようにするものなのかを考えて、各要素を入れて内容を描きストーリーを整理していくとよいでしょう。以下の欄内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

大学のリソースを活用した、オープンな学びの場を構築。Code for DOGO が展開するオープンデータを中心としたセミナーを広く一般にも公開し、学生さんはじめとした地域住民の方々に参加してもらい易い場を構築して行く。

現在、Code for DOGO のメンバー構成は、愛媛大学、松山大学の教員が中心となっている。Code for DOGO のイベント並びに定例会（勉強会）は、教員の呼びかけにゼミ生を中心として学生の方々に参加いただき、2015年2月のキックオフ以来、月一回のペースで定期的開催している。

この月一回の勉強会を、よりオープンなものにし、ゼミ生以外の学生さんや課題解決型のNPOの方々、自治体職員の方々も巻き込み、多様なメンバーでの意見交換を行うことにより、課題解決のヒントを生み出す場にもなりうると思う。

Code for DOGO のミッションのひとつは、大学教育を通じ、学生さんに対し地域貢献できる人材育成を行う事としている。地方大学における地域との関わりは、少子高齢化が進む今後、ますます重要になってくると考えられ、本アイデアは、学生さんが大学に通う中で、CIVICTECH の要素を取り入れた勉強会に参加しやすい環境として学びの場の創出を考えている。

(2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアにするのか）を、それをサポートする数値データ（実績、統計やアンケートなど数字であらわされるもの）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつご記入ください。数値データや証拠は出所を明らかにしてください。以下の2ページの欄内におさまるようお願いします。

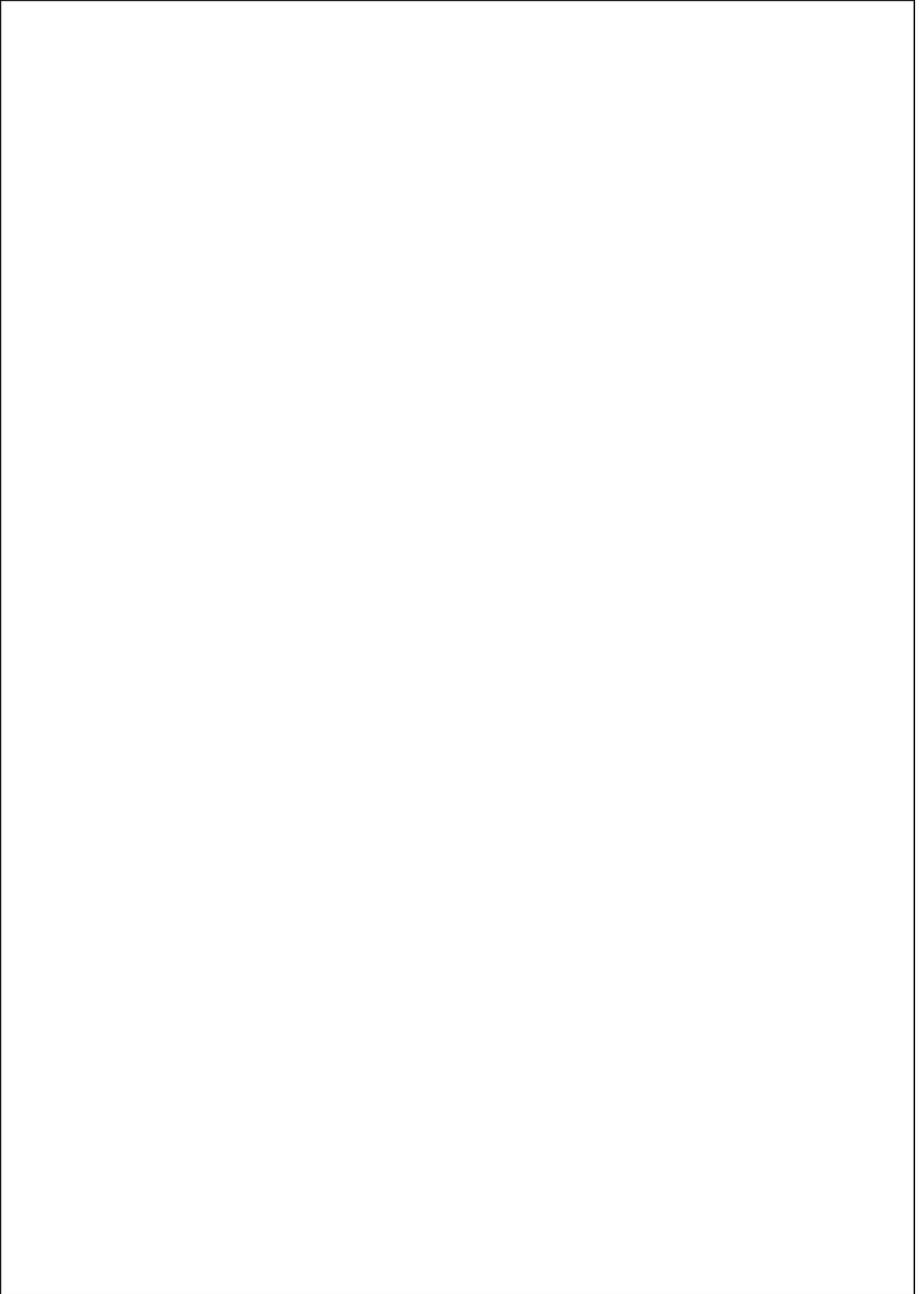
本年（2016年）10月12日に松山市においてもオープンデータの公開が行われた。その量と質は、今後、市民・社会が求めるニーズに合わせ、充実させて行く必要があると考えられ、Code for DOGOも松山市と議論を重ねてきた。

COG2016の課題が公開された後も、オープンデータの利用促進を進めるにはどうするか産官学での役割やあり方を議論し、公開されたデータを活用する上で、産官学がそれぞれが単独で取り組みののではなく、連携しながら一緒に進める事が重要と位置づけた。

松山市が公開した課題を、学生・市民として検討する場とし、12月17日に学生約30名でアイデアソンを実施した。様々な意見が出たが、この課題に対して考える場自体こそ重要と考えられ、その場を構成する要員は、多様な人である必要があると考えた。

チャレンジオープンガバナンス記録

日付	場所	自治体		市民・団体		
		電子行政課	他課	Code for DOGO	その他	
6月21日	電子行政課	岡田、門田	—	兼久、中川		COG
数回やり取り～日付記録なし						
10月18日	電子行政課	杉野、篠原、門田	—	兼久		応募
10月27日	電子行政課	杉野、門田	—	兼久		UDC
10月27日	電子行政課	杉野、門田	都庁：高橋、大澤	兼久		UDC
11月7日	愛媛大学	杉野、篠原、岡田、門田	—	兼久、中川、佐々木		ワー
11月10日	UDCM	篠原、岡田、門田	都庁：高橋	兼久	(UDCM:愛大)小野先生、小川さん	UDC
11月19日	東京	—	—	兼久、佐々木	—	Code
11月26日	坂雲ミュージアム	岡田、門田	—	兼久、中川	(UDCM:愛大)小野先生、小川さん	UDC
12月8日	電子行政課	杉野、篠原、岡田、門田	—	兼久		打ち
12月17日	愛媛大学	篠原	—	兼久、中川、佐々木		アイ



(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現にいたるプロセスとマイルストーン等、アイデア実現までの大まかな流れについて、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

2017年1月20日に自治体職員の方々を対象としたオープンデータフォーラムを開催いたします。その中で、オープンデータの普及促進には、自治体と市民（＝産官学民）が一緒になって地域課題に取り組み必要があると提言します。2月には、1月のフォーラムで賛同いただいた方々と一緒にワークショップを開催し、産官学民の連携体制を強化します。その取り組みを通して、来年度、大学と連携を強化しながら Code for DOGO が取り組みを拡充して行きます。

(4) そのほか（公開）

アイデアのアピールポイントや、アイデア実現に当たっての制約があればそれとその当面の解決方法、さらに将来の発展可能性（例えば「将来的に xx という制約をクリアできれば、追加で○○ということが実現できる」など）について、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。